

くきも、うつかりきして吸ひ込まれてしまふのも無理はない。

作者が、いたづら者の木つゝきに、こんないゝ唄を歌はせてゐるので、可愛いゝ動物の子供達をだましてゐながらも、却つて道化役者の一役をふりあてられてゐてにくめない。

お茶の水の舊い建物の頃であつたから、それからもう十四五五年も経つたであらう。こんなこを思ひ出す。修了の日で、さの組の子も、みんなその日を幼稚園ミのお別れで、歸つて行つてしまつた。

常の日は違ふその日の静けさの中に憩んでゐた時、倉橋主事がいつていらつしやつて、かうおつしやつた。

観 察

第四週

すゝき

この月は年少組も年長組も植物材料が多い。花に、實に、

「あの室で、いゝお別れをしてゐますよ」

ミ。それは、その室では、「ねん／＼ねむの木」のお話をし
てゐられたのであつたさういふこを、あきできいた。この
頃のように、修了の日にはいろ／＼の催しがあつて、その
日にお話なさゝは思ひもよらないが、その頃の修了の日が、
いかにも、のんびりしてゐたさと思はれ、又ねん／＼ねむ
の木を選ばれた保姆さんの人柄なさもさすがにミ偲ばれ
て、今でも時々忘れがたく思つてゐる。

なほ、これを書くに當つて、この作者を知り度いと思つ
て、心あたりを問ひ合せてゐるうちに、作者は平井泰太郎
氏ですさいふはがきを倉橋主事から、海岸の出先で受け
つた。

秋酣の今を表すものに植物が手近に多いから是非もない。

お月見頃よりかへつて今時分に澤山穂を出す。禾本科の
多年生草本、穂を尾花ミ言つて秋の七草の一つであるこ

は周知の事である。この様な材料は觀察の機會を多くもつものでその情景を澤山考へる事が出来る。が觀察させ度い所は二つある。一つは穂、他の一つは葉である。穂はよく開いた時これが其の花である事を話す。葉はふちのかたいさげ／＼を注意して山なぎで手を切らないように話すのもよい。こんな材料は得てして理科教授になり易く、しかも面白くない。それよりもすゝきの穂でつくつたみづくの玩具なごをみ乍ら觀察させるこゝそ面白いい思ふ。

第五週

ほうせん花

鳳仙花科の鳳仙花一名「つまくれなひ」又は「ほねぬま」こいふ處もある。印度原産の植物である。花の色も子供の好ましい色が種々あつて幼稚園の花壇によい花である。もうこの頃では花はおしまひに近い。花の觀察はもう少し早いがよい。こゝでは主として果實の觀察である。花壇を訪ねた時子供達こゝしよにしゃがんで實をこらう。そつこ取らうとさわる途端にバツミはぢける、はぢけて黒い種子

を出す。はぢけたあこの面白い形、これ等を觀察させ乍ら收穫する。動的な面白い觀察材料である。

第六週

ぎんぐり

ぎんぐりは穀斗科植物の櫟、檜等の果實である。今更こに取立てゝ説明する迄もなく多く遊ばれてゐるし、一層斯うした自然物で遊ばせたいと思ふものである。

松茸

秋の食品の王座をしめるものだこ或人は言ふ。觀察材料としても亦珍らしく面白いものである。きのこは一般に觀察させる事が少い、こいふのは有毒茸を殊の外おそれる爲であらう。若し自然に茸の生えてゐるのを觀察出來たらこれに越した事はない。それが無い時は、形のいゝ松茸を三つ四つ用意して自由畫の寫生材料にしたり、粘土でつくらせ乍ら色、形、かさの内側のひだ、香等を觀察させる。若し粉のおちるのを氣がつくこゝきもがありそれに不審をもつならば、花の種子のやうに、これがこぼれるこゝきのこが出

來る事を話してやる。粉は小さいものであるから蟲眼鏡があつたら一そうよいであらう。松茸に限らず椎茸、しょうろその他庭に生える茸類を口へされ入れねば恐ろしいものは少い。折にふれてみせ、これも草や木のような生きてゐるものである事を知らしめ度い。

第七週

菊、コスモス

秋は菊、菊は秋、で今迄に菊科植物は數種出て來たかも知れないが秋こそ菊の觀察シーズンである。一般に菊こそよりもコスモスさいふ様な一つから、種類をあげて觀察

手 技

第四週

自由畫 二回

四つ切大の白の構造紙、或はうす色の包紙の廢物なぎを利用してもよいが、それに毛筆で自由畫をかゝせる。始

させ度い。春に蒔いたコスモスが今は花盛りである。朝こぎも達こその枝を花瓶にさす爲取り乍ら、又花瓶に生け乍ら花の觀察をさせる。少し散りさうになつた花をこつて花瓣一枚のやうなのをぬくこ小さな花になつてゐる事をみせる。小さな花が一ぱい集つてゐる事をみせる。大きな花瓣がいくつあるかを數へさせる、これはいくつ、それはいくつ、こ數へ乍ら數の比較をさせる。そしてコスモスはこの菊こ親類、こ言つて他の菊の花も同様に觀察させる。菊の花のよい香もこゝで忘れず嗅がう。そして菊の花はどれもきれいで香がよくていゝ花で皇室の御紋にもなつてゐる事も話してよいこ思ふ。

めて筆をもつ幼兒たちのためには、穂先のこがつたものよりも、少し書き切れのしてゐるものゝ方が使ひよい。そして腰の強い筆がよいので水彩繪具筆や、大人の使ひふるしの筆でよいので、紙も筆も廢物で充分であつて、